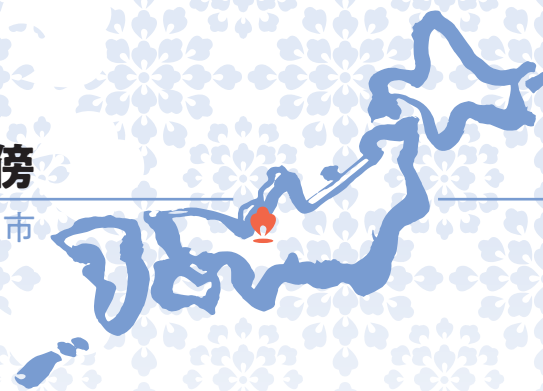


6 「竹の径」に倣え「藪の径」景観づくり ～市民による手づくり郷土ランドスケープ～



藪の傍
京都府 向日市



1 社会資本の概要

当該地域は『全国遊歩百選』『歩きたくなるみち500選』『京都府景観資産』『京都府文化的景観』に選定され、竹林浴ができるすばらしい癒やしの散策路「竹の径」と同エリア「西ノ岡丘陵」に位置する元タケノコ畑と竹藪道が文化的景観・風致に優れた地域でした。

しかし、高齢化と竹産業の衰退によりタケノコ畑

や竹材竹林の放置竹林化が顕著となり、景観の悪化が課題となっていました。

また、当該地域は大阪と京都の中間に位置し、ニュータウン開発により、当該竹林は住宅に隣接した都市型竹林であるが、暗く鬱蒼とした竹林やその中を縫うように走る道路は、住環境にも悪影響を及ぼしていました。



放置竹林と市道の状況



放置竹林と市道の状況



近隣の整備された竹林「竹の径」

3 活動の成果や波及効果等

活動が認められ、放置竹林整備面積は、活動開始当初から20倍に増加しました。活動継続の秘訣は、竹林で自分の夢が叶う実現場であること。続けることで知識・技術・ネットワークが広がり、夢の実現に近づく自分のスキルを活かせる場として活動竹林が使えるなど、参加者のメリットを常に心がけ、繋がる交流竹林としての位置づけが継続の仕組みとなっています。

巨大な竹造形物や竹加工技術は、地元の建築専門学校や企業などプロが関わることで可能になりました。幼竹をメンマとして活用する「純国産メンマプロジェクト」への参加により、商品化～販売オフアーがあり、地域の特産林産物商品として発表しています。



「藪の径」整備（竹垣整備）



タケノコ畑整備



メンマづくり

喜びの声



受賞者

右から
小関代表
石田氏
大塚理事

コメント

見向きもされない市道＝竹林道が社会資本として、受賞できたことにこの上ない喜びを感じています。道と景観は切っても切れない関係です。厄介者の放置竹林とセットの受賞は、市民活動が社会問題解決の一助となり、放置竹林に関心が向き、美しい竹林景観の遊歩道＝市道が「竹の径」をはじめとして西ノ岡丘陵全体に誕生する夢が叶うかも知れません。

活動の内容

- 「藪の径」の整備（市道の側溝清掃・竹垣設置）
- 間伐竹で竹の冒険小屋・玉ねぎ型竹茶室・竹栈敷づくりなどの構造物製作・伝統技術の継承
- 幼竹をメンマとして活用する「純国産メンマプロジェクト」に参加。地域の特産林産物商品として発表

活動の経歴

- 平成29年 藪の傍設立
- 平成30年 放置竹林に間伐竹で冒険小屋づくり
- 令和元年 玉ねぎ型竹茶室づくり
- 令和2年 竹栈敷づくり・竹垣設置、タケノコ栽培開始、純国産メンマサミット参加
- 令和3年 手づくり郷土賞（一般部門）受賞

2 取組の背景、取組概要と創意・工夫

活動団体の代表者が過去に携わっていた地域活動を通して広がったネットワークの中から、放置竹林の再生についての相談を受けたことをきっかけに2017年に設立、再生への様々な取組に着手しました。

親子・学生・専門家・団体が、竹林用途の分野別整備を、景観・地域づくり・伝統文化の継承・竹藪道（市道）美化を理念に西ノ岡丘陵のランドスケープデザインを視野に入れ学識者の助言を受けながら活動。間伐竹で竹の冒険小屋・玉ねぎ型竹茶室・竹

栈敷づくりや、「藪の径」の整備を行いました。

タケノコ畑では地域の伝統的な栽培の講座を開催しながら実践による栽培を実施し、竹化未満の段階での活用による竹個体数を削減について、食利用による竹林整備モデルづくりを実施しました。

会費・参加費無料でプログラムを提供し、入退出自由、老若男女、プロ・素人問わず、参加のハードルを低く設定することで、新しい発想、住民自ら考え工夫を凝らした取組ができています。



放置竹林に玉ねぎ型茶室を整備



放置竹林に竹栈敷を整備



「藪の径」整備
（市道の側溝清掃・竹垣設置）

所在地

京都府向日市物集女町長野

活動主体及び連絡先

藪の傍 TEL:075-922-6587

対象となる社会資本

向日市道1068号

